

770 末松文庫関係者小集

〔『法学新報』第33卷8(380)号 大正12年8月1日〕

○末松文庫関係者小集 昨年故文学博士法学博士末松謙澄子遺愛の政治法律及文学に関する蔵書千八百九十余部を挙げて末亡人郁子刀自より中央大学図書館に寄付ありたるに依り中央大学にては記念の爲め之を以て末松文庫を設け其整理中なりしか該目録の印刷も竣り和田英作画伯揮毫の故子爵の遺影も漸く出来したるを以て去月三日午後二時郁子未亡人及女婿大竹虎雄氏

夫妻、飯島博士未亡人鶴子氏、高楠順次郎博士、友枝高彦博士、男爵穂積陳重博士、宮岡恒次郎氏等を招待して其一覧を請ふことと為り学校側よりは岡野学長、両馬場理事、佐藤理事、花井博士等出席し岡野学長の案内にて閲覧室に掲ぐる故末松子爵の遺影の前に在世当時を偲ひ書庫に於ける蔵書に就き穂積男爵を始め諸博士は古書珍籍を一々抽出して故子爵の蘊蓄を譚り綿々の情尽くるなかりしか学長は一同を休憩室に導き茶菓の饗応を為して後学長は起て末松文庫寄附の厚意を深謝し併せて末松文庫設置に関し列席諸氏の懇篤なる尽力を謝し大竹氏より末松家を代表して挨拶あり穂積男爵の切実なる友情の流露したる所感談に一同感涙に咽ひ細雨霏々たる中を散会したるは午後四時過なりき